

別府里浜づくり新聞

第9号
平成17年
9月27日

第5回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)を開催しました



別府港海岸（北浜地区2）の整備基本計画（案）策定にあたり、市民の皆様に参加して頂く、「第5回別府港海岸づくりワークショップ」を平成17年8月1日（月）午後7時より別府市内の大分国際交流会館で開催しました。

当日は16名の市民の方々にご参加頂き、大分県並びに別府市の職員の方々を含めた37名での開催となりました。

ワークショップの内容

ワークショップでは、最初にこれまでのワークショップ及び幹事会、委員会における検討経緯の報告及びこれらを踏まえた整備計画案の説明を別府港湾・空港整備事務所から行い、緑地の景観デザインについて、東京工業大学の齋藤研究室に模型を使用して説明して頂きました。

その後、3つのグループに分かれて討議を行いました。最初に別府港湾・空港整備事務所の提案した整備計画案について意見をいただき、今後の課題として、護岸の特に北側端部の基礎の処理（親水性と安全性の考え方）、利用動線、緑地整備への要望・意見について、討議を行いました。

平成16年度 第5回
別府港海岸づくりワークショップ
会次第

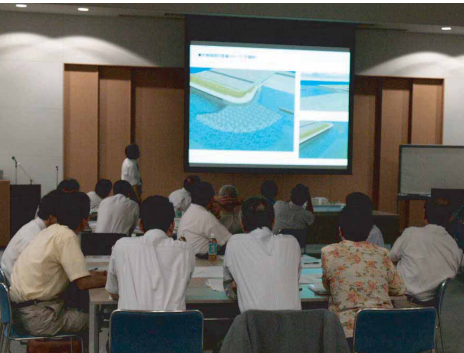
1. 開会
2. これまでの検討経緯の報告および整備計画案の説明
3. 模型による説明
4. グループ討議
5. 全体討議
6. 閉会

基本計画案について確認して頂き、北側端部の処理や利用動線についてご意見を頂きました

これまでの検討から、別府港湾・空港整備事務所の作成した基本計画案について、確認していただき、基本的方向性としては、妥当であるといった意見が出されました。

その上で、北側端部の基礎が干潮時に露出することから、水に触れられる親水性を確保できる可能性のあることに対して、「安全性を確保することが必要である」、「自己責任のもとで利用してもらうべき」、「隣接するスパビーチにおいて水に触れられる。安全性に不安のある基礎部分の利用は避けるべき」といった意見が出されました。

また、海辺へのアクセス路を確保すべきであるとして、特に隣接するスパビーチやヨットハーバー、鶴水城跡地などとの連携が重要であること、さらに整備後の管理方法を検討する必要があることなどの指摘がありました。



整備計画案の説明の様子



全体討議の司会をする菅座長



全体討議の様子

- ーBグループの発表内容ー
- 護岸整備の基本計画案（平面計画・断面計画）について
 - ・防災上、前に出して防御する方法でよい。
 - 北側端部の処理（親水性と安全性の考え方）について
 - （1）親水性
 - ・特に無し
 - （2）安全性
 - ・スパビーチとの先端部分は管理をしないと開放しない方がよい。
 - ・スパビーチは何もしてないし、その延長だからよいと思う。
 - ・角地は開放すべきだ。県や市と話あって管理を考えるべきだ。
 - ・スパビーチでおぼれかかったこともある。
 - （3）その他
 - ・立入禁止の看板ぐらいでは裁判で負ける。
 - 利用動線、緑地整備への要望・意見
 - ・10号で分断されているので、何か検討してほしい（デッキなど）。
 - ・鶴水城跡の空地は、公園などに利用できればすばらしい。
 - ・駐車場代を払ってまで見たいという海岸ではない。
 - ・スパビーチや北浜公園の緑はあった方がよいと思う。



Aグループの討議の内容を発表する高波氏



Bグループの討議の内容を発表する中尾氏



Cグループの討議の内容を発表する平野氏

お知らせ

○次回ワークショップについて

第6回のワークショップを10月中に開催を予定しております。詳細は後日ご案内いたします。

○別府里浜づくり新聞をホームページにアップします。

別府里浜づくり新聞1号から9号までを、下記ホームページに掲載いたします。

○「別府湾岸を考えるシンポジウム」を平成17年11月27日（日）に開催いたします。

本別府港海岸整備を含め、生まれ変わる海岸線の利活用と地域の発展について皆様とともに考えるべく、シンポジウムを11月27日（日）に開催いたします。詳細は別途ご案内いたします。ふるってご参加ください。

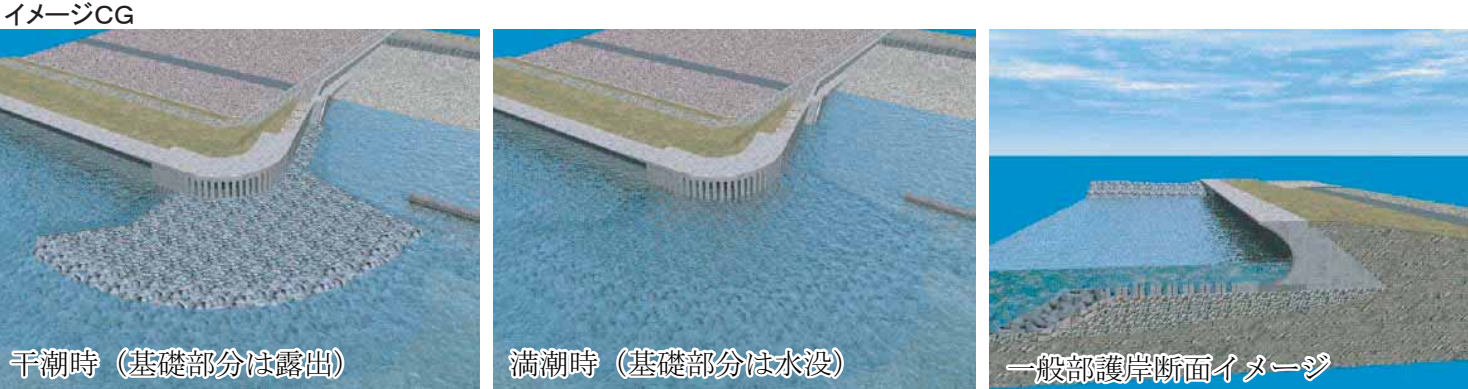
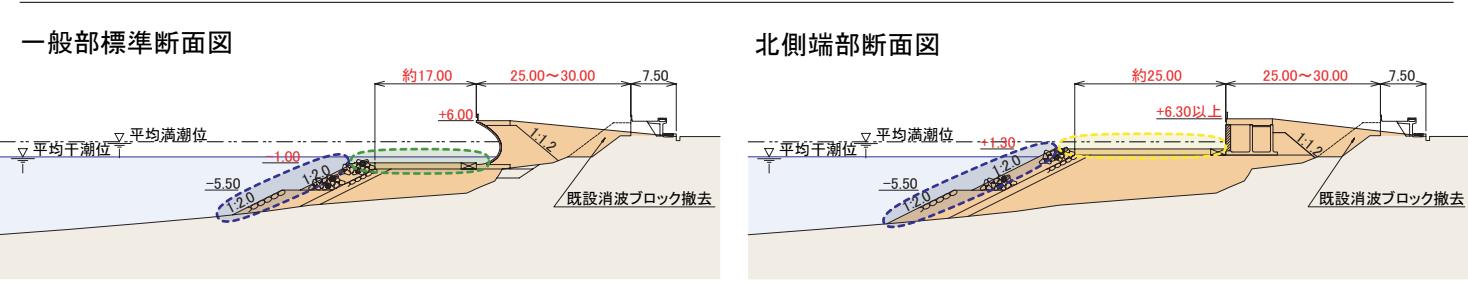
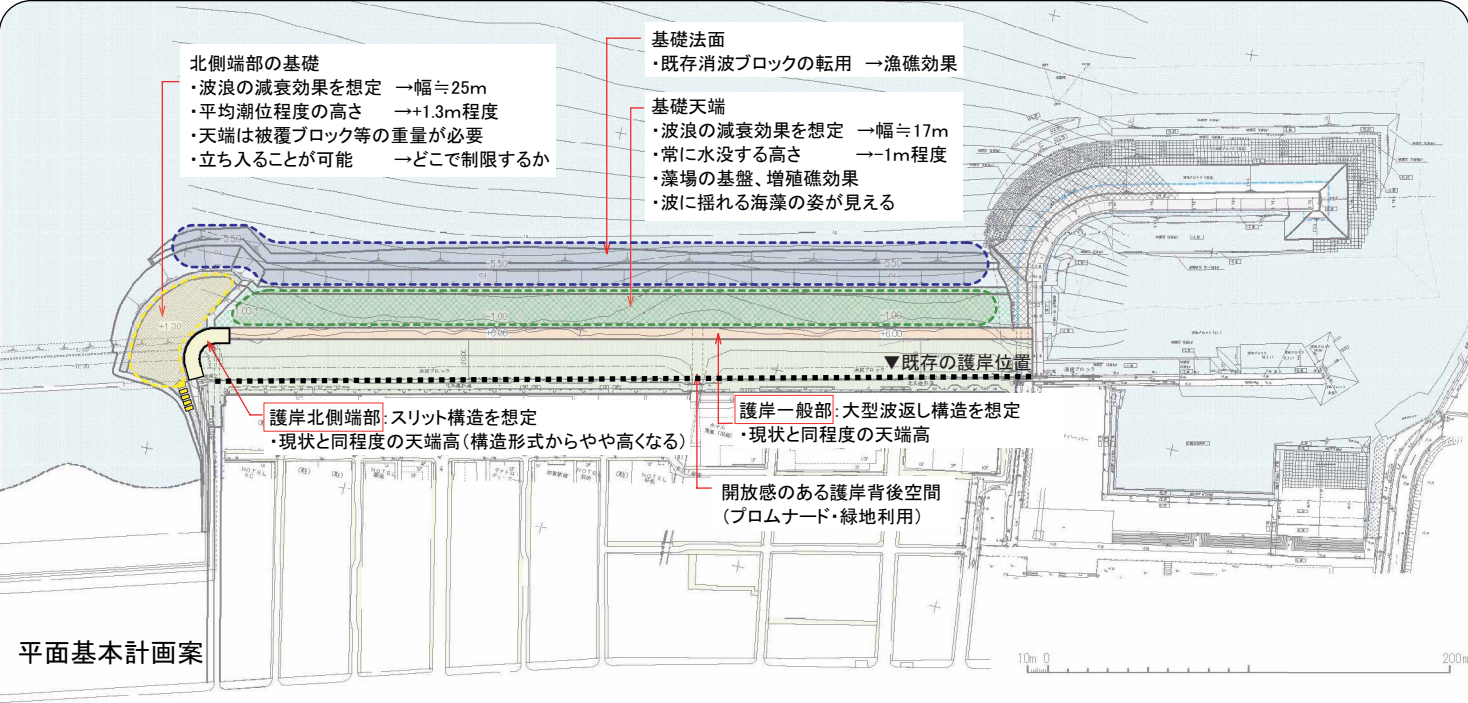
※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧下さい。
<http://www.beppu-port.go.jp/>

基本計画案（平面計画、断面計画）について

これまでの検討を踏まえて、事務局から基本計画案を提示し、基本的な方向性として、確認して頂きました。
基本計画案のポイントは以下の通りです。

＜基本計画案のポイント＞

- ・新設する護岸は、背後地域を防護しながら施工する必要があるため、既存の護岸より沖に約25～30m出して施工すること。なお、前出しする約25～30mの部分を緑地としてプロムナード等に利用可能である。
- ・一般部は大型波返し構造を想定し、護岸の高さを現況と同様の+6.0m程度とすること。
- ・北側端部は、大型波返し構造ではスパビーチへ波を誘導してしまうことなどが考えられるため、縦スリット構造を想定し、護岸天端を一般部より若干高い+6.3m程度とすること。
- ・一般部の前面基礎の高さは、藻場等の形成に効果が高いと考えられる-1.0mとすること。
- ・北側端部の前面基礎部分は、防護機能を確保するために一般部より高くまた、広くする必要があるが、これを幅25m程度、高さ+1.3m程度にすること。なお、これは干潮時に水面から露出する高さである。



護岸背後の緑地について、東京工業大学の齋藤研究室から提案がありました

緑地の北側端部のデザインについて、東京工業大学の齋藤研究室から模型を用いた提案がありました。
北側端部のデザインのポイントとして、スパビーチとの一体性や連続性、国道10号から緑地にいたる明るいアクセス路の必要性を上げ、検討案の1/200模型によりデザイン案が提示されました。現在のスパビーチと北浜旅館街の間の街路を拡幅し、スパビーチと一体的に再整備したプロムナードで、護岸北側端部に展望スペースを設けた緑地と、10号及びスパビーチの緑地をつなぐといった案が示されました。



模型説明の様子 模型をスパビーチから緑地方向に見る



※模型は、干潮時に北側端部の基礎が水面に露出しない形になっているが、親水利用と安全対策、管理責任等を勘案した場合の一つの方法として齋藤研究室が提案したものである。

グループ討議および全体討議

A、B、Cの3つのグループに分かれて討議を行いました。主に、護岸整備の基本計画案に対する意見、北側端部の処理（親水性と安全性の考え方）についての意見、利用動線・緑地整備への要望・意見の3つの観点から討議を行いました。その後、参加者全員で全体討議を行い、グループ討議の発表・意見交換を行いました。



グループ討議の様子：付箋を使って出された意見を整理

－Aグループの発表内容－

- 護岸整備の基本計画案（平面計画・断面計画）について
 - ・基本計画は賛成
- 北側端部の処理（親水性と安全性の考え方）について
 - (1) 親水性
 - ・安全面第一。スパビーチで十分。
 - ・引き潮の時も水面下でよい。
 - ・親水性を大事にしたい。無論安全面に配慮したい。
 - ・親水性については、スパビーチ側でうまく計画する。
 - ・波返しの基本的考え方に賛成。但し、親水性については干潮時のみ基礎の部分が水面上に出ること（常に水没は避ける）。但し、自己責任で行けるようにする。奨励するものではない。このように街の中心で完全に遮断するべきではない。非常に大切なことである。時代は大きく変わる。
 - (2) 安全性
 - ・人・構造物の高波防護が絶対であり、防護柵設備、海難救護設備の設置。
 - (3) その他
 - ・時代背景が大きく変わろうとしている将来のことをよく考えてほしい。現時点の価値観のみにとらわれないように。

- ・別府海岸全体線形を考慮した親水対策。
- ・北側のみでなく、一般部の利用。
- ・緑地帯の連動利用と親水部の連動利用。
- ・被覆ブロックを最小限被覆石を利用。
- ・親水利用階段。
- ・安全評価対策については、自己責任制にしてほしい。但し、安易に自由にどうぞと行かせるのは問題。危険だから一切行かせないということだけは避けてほしい。
- 利用動線、緑地整備への要望・意見
 - ・幹線道路に近いところに動線がある。グリーンを配慮した利用を考えたい。
 - ・北浜地区境界に隣接する土地を有効利用（アクセスの拡大）幅員確保、排水計画。
 - ・緑地の清掃については地元の方々がするべき。
 - ・10号線が長い年月産業道路になっている。この分断の解決を図る。
 - ・その他関連施設として、その北側の漁港計画の目的について説明してほしい。